



子育て・教育・福祉部会資料

施策2-2-3 安全で快適な教育環境の整備

教育委員会事務局
令和6年5月

資料をご覧ください 上での注意事項

掲載している数値等は、5月27日（令和6年度川崎市政策評価審査委員会第1部会の開催日）時点のものであり、今後、修正・変更になる可能性があります。

施策の概要

概要

背景

取組

成果

まとめ

基本政策(1層)

子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり

政策(2層)

未来を担う人材を育成する

施策(3層)

安全で快適な教育環境の整備

直接目標

安全で快適に過ごせる学習環境を整える

主な事務事業

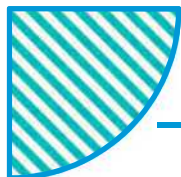
学校安全推進事業

学校施設長期保全計画推進事業

学校施設環境改善事業

学校施設維持管理事業

児童生徒数・学級数増加対策事業



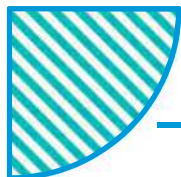
実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

成果指標①

児童生徒の登下校中の事故件数

| | | | | |
|---------|---|---------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 算出方法 | 市立小学校、中学校及び高等学校の登下校時における事故報告の合計(直近5年間の平均値) | | | |
| 指標の考え方 | 児童生徒の事故件数のうち、登下校時における事故件数を指標に設定することにより、通学路における交通状況の変化や、学校で実施する交通安全教室、通学路の安全対策などの施策の効果を測ることができる。 | | | |
| 指標の目標値 | 第1期策定時 29 件 (H22～H26平均) | 第1期目標 27 件以下 (H25～H29平均) | 第2期目標 25 件以下 (H29～R3平均) | 第3期目標 23 件以下 (R3～R7平均) |
| 目標値の考え方 | 計画策定時における過去5年間の登下校時の事故件数のうち、最も件数が少ないH26(2014)の件数(23件)以下とすることをめざして、段階的に削減することを目標とする。 | | | |



実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

成果指標②

老朽化対策及び質的改善が行われた学校施設の割合

算出方法

「築年数20年以下(H25[2013]時点)の学校施設数(40施設)＋老朽化対策及び質的改善済の学校施設(2施設)」／全学校施設(174施設)

指標の考え方

安全で快適な学習環境を実現する上で大きな部分を占める、老朽化対策、普通教室やトイレなど教育環境の質的改善、環境対策をあわせて行う再生整備の進捗状況を把握することで、教育環境の改善の成果を測ることができる。

指標の目標値

第1期策定時

24.1%(H27)

第1期目標

28.7%(H29)

第2期目標

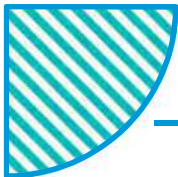
50%以上(R3)

第3期目標

80%以上(R7)

目標値の考え方

「学校施設長期保全計画」に基づく、第1期取組期間(H26(2014)から概ね10年間)での再生整備着手によって、教育環境の改善を図ることを目標とする。



学校安全推進事業の背景

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 登下校時の事故や事件、また地震や水害などの自然災害等が各地で起きていることから、すべての子どもが安全で安心な環境で教育を受けられるよう、自らの命を守るための取組や、通学路や学校施設等の安全確保が必要です。

■近年発生した主な事件・事故とその対策

令和元年5月 多摩区登戸 児童殺傷事件
⇒通学路の安全強化のため、警察OBによるスクールガード・リーダーを5名増員(20名→25名)

令和3年6月 千葉県八街市 児童死傷事故
⇒国からの依頼により教委・学校・PTA・警察・道路管理者による合同点検を実施

令和5年3月 埼玉県戸田市立中学校不審者侵入事案
⇒スクールガード・リーダーに中学校周辺の巡回を依頼
不審者侵入対策として、授業時間中は正門及び通用門を施錠又は閉門しておくよう指示など

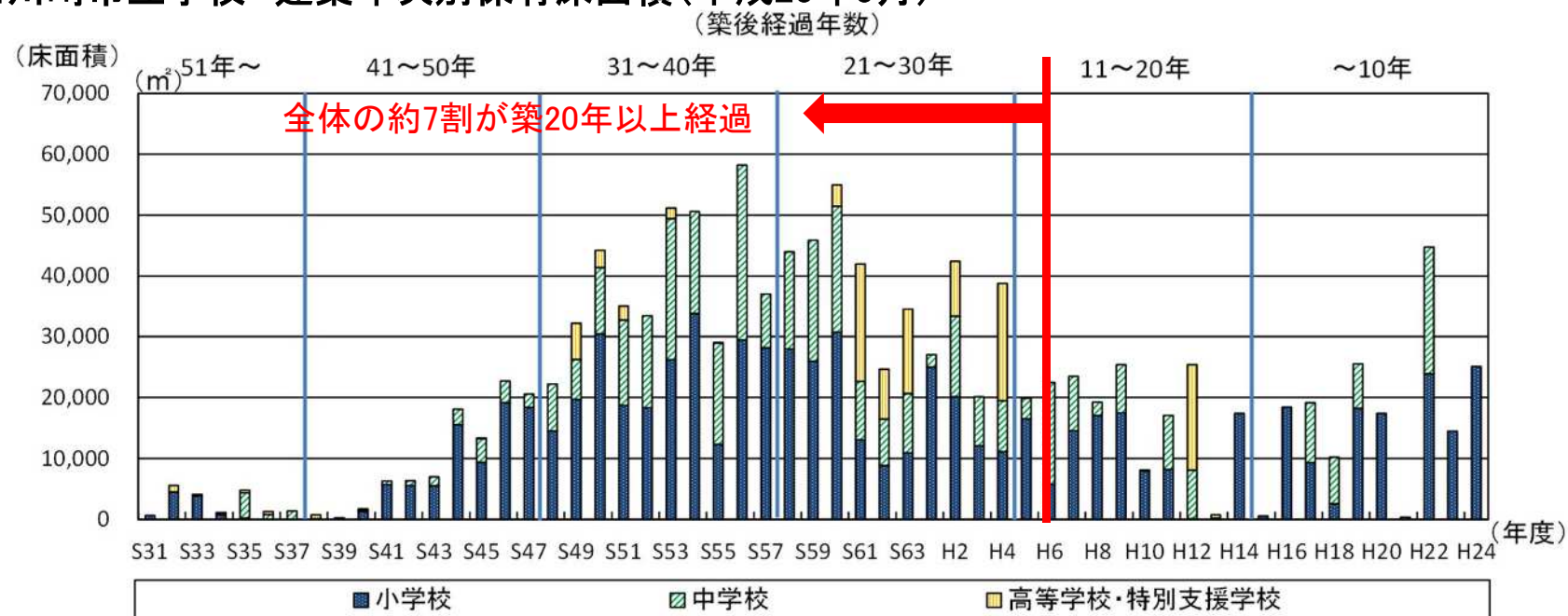
※令和5年4月、自転車に乗った市内の小学生がトラックにひかれて死亡する事故が発生した際には、各小学校の交通安全教室においてヘルメット着用努力義務化に関する周知を実施するとともに、学校から各家庭に周知を図りました。

学校施設の老朽化対策及び質的改善が求められる背景①

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 本市の学校施設は、昭和40年代後半から50年代にかけての児童生徒急増期に、一斉に整備されたものが多く、平成25年5月時点で非木造施設約130万㎡のうち、築年数が20年以上の施設は約90万㎡と全体の約7割を占めており、老朽化が進んでいる状況にありました。
- 同時期に整備した学校が多いことから、建築年次別の保有床面積が偏在している状況にあり、厳しい財政状況において、今後、高まる改築の需要の抑制を図る必要があります。

■川崎市立学校 建築年次別保有床面積(平成25年5月)



学校施設の老朽化対策及び質的改善が求められる背景②

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 厳しい財政状況の中、老朽化による改築の需要を抑制する必要があったことから、再生整備と予防保全による長寿命化に加え、財政支出の縮減と平準化を図ることを目的として、平成26年3月に「学校施設長期保全計画」を策定しました。

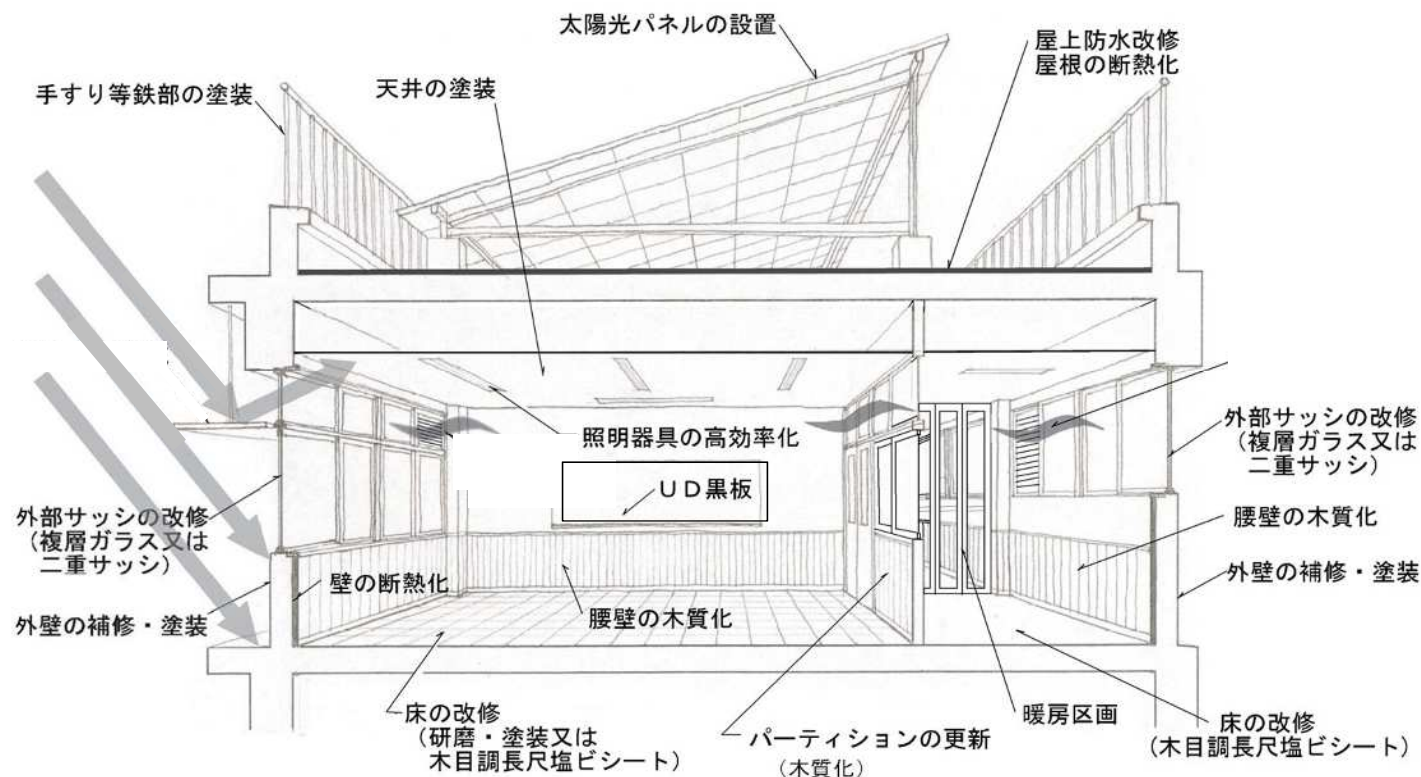
【再生整備】

既存学校施設の改修により老朽化に対応するだけではなく、トイレの快適化やバリアフリー化等の教育環境の質的な改善を行うとともに、環境への負荷を低減するための環境対策を併せて実施すること。

【予防保全】

計画的に学校施設の点検・修繕を行い、不具合を未然に防止する管理手法のこと。

■再生整備の改修イメージ

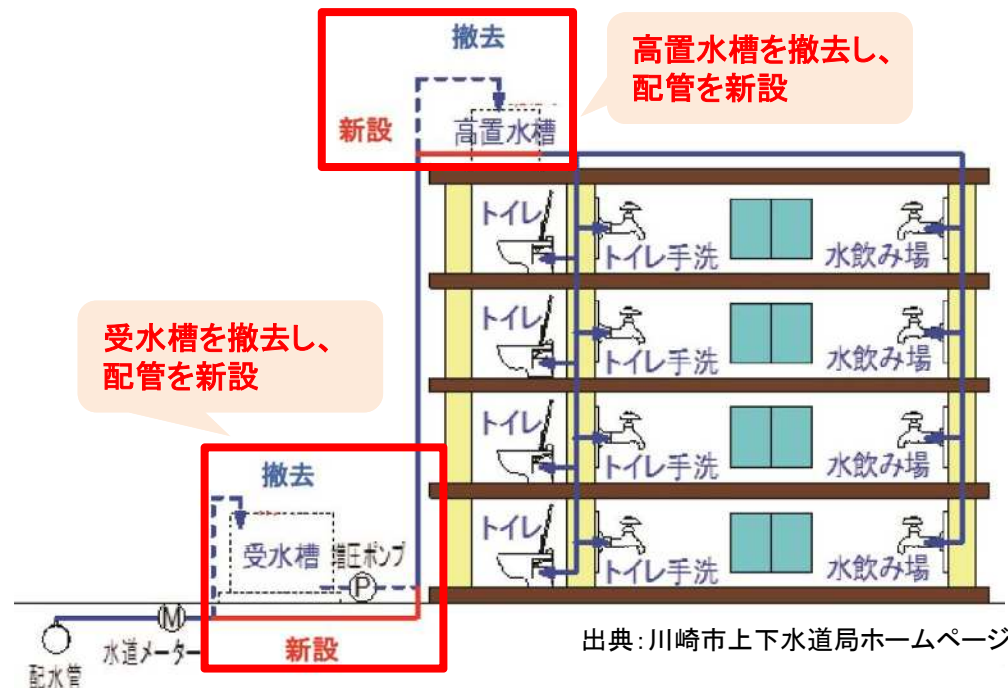


学校施設の老朽化対策及び質的改善が求められる背景③

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 次世代を担う子どもたちにおいしい水を提供し、蛇口から直接水を飲む文化を継承すること、配水管の水圧を有効利用することにより環境負荷の低減を図ることを目的として、「学校直結給水化事業」を実施しています。
- 平成23年度から平成27年度にかけて、学校の給水方式を受水槽方式から直結給水方式に切り替えるモデル事業を実施し、その検証結果を踏まえながら平成29年度から工事を実施し、令和3年度末までに22校で完了しています。

■学校直結給水化工事のイメージ



【受水槽方式】

受水槽に溜めた水を給水します。休日に水が滞留すると、夏場は外気で温められた水が蛇口から出てくるので、おいしくないと感じる子どもたちがいます。

【直結給水方式】

配水管から直接蛇口まで水がとどくので、新鮮でおいしい水になります。またポンプ設備等の消費電力を削減でき、環境に優しい給水方式になります。

快適な学習環境の確保に向けた設備更新の背景

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 新学習指導要領等に基づく多様な学習内容や形態に対応した高機能かつ多機能な施設環境の整備に加え、防災対策、バリアフリー化、普通教室やトイレ等の子どもたちの学習・生活空間の快適化、環境負荷の低減等の様々な配慮が学校施設には求められています。

- 障害のある児童生徒等も安心して学習・生活することができる教育環境の整備として、令和3年度末までに163校にエレベータ設置が完了しています。
- 子どもたちの健康面と関連性が高く、児童生徒や保護者等からのニーズも高いトイレ改修については、令和3年度末までに141校で完了しています。

■トイレ快適化のイメージ



和式トイレ



「学校トイレ快適化事業」

- ・平成20年度から、排水管1系統以上で快適化
- ・平成30年度から、排水管全系統で快適化
⇒取組の加速化

※トイレは縦に通った排水管毎に整備されており、その排水管毎のグループを系統と表現しています。

【トイレ快適化の整備内容】

- ・床面のドライ化による臭気対策
- ・和式便器から洋式便器への変更
- ・自動水栓による節水対策
- ・LED化による省エネ対策等

良好な教育環境整備の推進の背景

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」(昭和33年法律第106号。以下「義務標準法」という。)による小学校における35人学級の段階的な実施や、大規模集合住宅等の開発動向等も踏まえ、良好な教育環境を維持していくことが必要です。



- 児童生徒の増加に的確に対応し、良好な教育環境を維持するため、教室の転用や増築等の対応を計画的に進めており、平成31年4月には、小杉小学校が開校しました。

小杉小学校



平成31年4月開校

学校安全推進の取組①

概要 背景 **取組** 成果 まとめ

- 学校を巡回し、通学路の危険箇所のチェックや防犯対策を行うスクールガード・リーダーを25名配置しています。
- 踏切等の危険箇所に地域交通安全員を市内99か所に配置しています。
- 通学路安全対策会議での議論を踏まえた危険箇所の改善を推進しています。

スクール・ガードリーダーの様子



スクールガード・リーダー

市から委嘱された防犯の知識を有する者で、学校を巡回し、通学路の危険箇所のチェックや登下校時の見守り、防犯対策の指導・助言、地域交通安全員への指導などを行います。現在は警察OBが1名当たり4～5校程度を担当(国の配置基準に準拠)し、市立小学校全校を巡回しています。



地域交通安全員

通学路上の交差点や踏切など教育委員会が認定した危険箇所において、登下校時の児童の見守りや交通整理、安全指導を行う人員です。学校からの要望を受けて、信号機のない道路の横断箇所などの設置基準を満たした場合に配置を行っています。

地域交通安全員の様子



学校安全推進の取組②

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 学校防災教育研究推進校(7校)による先導的な研究や、各学校の実態に応じた防災教育を推進しています。

令和5年度 学校防災教育研究推進校の研究テーマ(一部)

●四谷小学校

「津波や浸水被害を想定し、児童が安全に避難するための避難訓練の実施」

●南大師中学校

「地震・津波時における生徒の自主的避難
～地域に根ざした防災意識の向上～」

●橘高等学校

「地域との連携による防災活動や防災教育の普及活動
の活性化に向けた研究 高等学校における防災教育の
充実に向けた研究」

■学校防災教育研究推進校における防災授業の様子



各学校の実態に応じた防災教育の推進

- ・学校防災教育研究推進校の取組を全校で共有し、各校の防災教育で活用
- ・各学校で市作成のひな型を元に危機管理マニュアル等を整備し、防災訓練や教職員向け防災研修を毎年実施
- ・学校所在地の周辺状況(津波、土砂崩れの危険等)に応じた避難訓練の実施

「学校施設長期保全計画」に基づく取組①

概要 / 背景 / **取組** / 成果 / まとめ

- 計画的に保全を行うために築年数により、それぞれの学校を3つのグループに分類し、グループごとに整備メニューを設定し、計画的に予防保全及び再生整備を実施しています。

校舎

| グループ | 築年数 ※1 | 項目 | 校数 | 整備メニュー(令和5年度時点実施内容) |
|-------|---------|------|-----|---------------------------------|
| Aグループ | 20年以下 | 予防保全 | 40校 | 防水・外壁・内装・電気設備補修、エレベータ改修等 |
| Bグループ | 21年～30年 | 再生整備 | 36校 | 防水・外壁補修、トイレ改修、エレベータ設置等 |
| Cグループ | 31年以上 | 再生整備 | 98校 | 防水・外壁補修、トイレ改修、エレベータ設置、内装改修、断熱化等 |

体育館

| グループ | 築年数 ※1 | 項目 | 校数※2 | 整備メニュー(令和5年度時点実施内容) |
|-------|---------|------|------|------------------------|
| Aグループ | 20年以下 | 予防保全 | 38校 | 屋根・外壁補修、照明改修等 |
| Bグループ | 21年～30年 | 再生整備 | 90校 | 屋根・外壁補修、照明改修等 |
| Cグループ | 31年以上 | 再生整備 | 48校 | 屋根・外壁補修、内装改修、照明改修、断熱化等 |

※1 築年数は、「学校施設長期保全計画」策定時点(平成26年3月)の築年数

※2 体育館の校数について、橘高等学校と高津高等学校は2棟カウントしています。

「学校施設長期保全計画」に基づく取組②

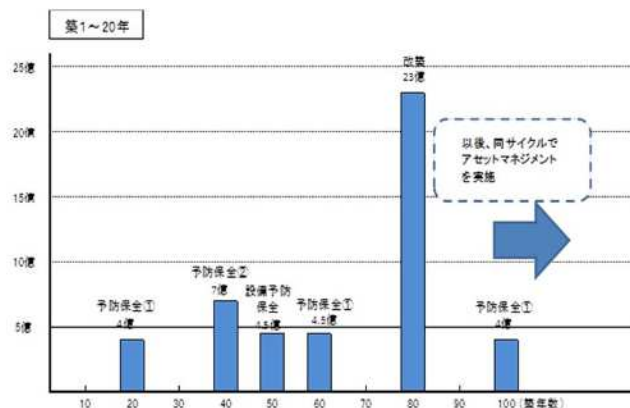
概要 背景 取組 成果 まとめ

- 本市の学校施設においては、これまで建築後45 年程度で建替えを行ってきましたが、老朽化対策及び質的改善を実施し、日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」をもとに、目標耐用年数を80 年と設定します。

グループ毎の整備メニュー及び実施期間は次のとおりです。

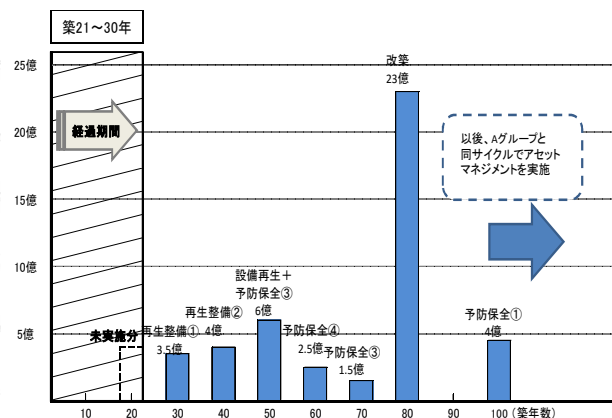
校 舎

Aグループ



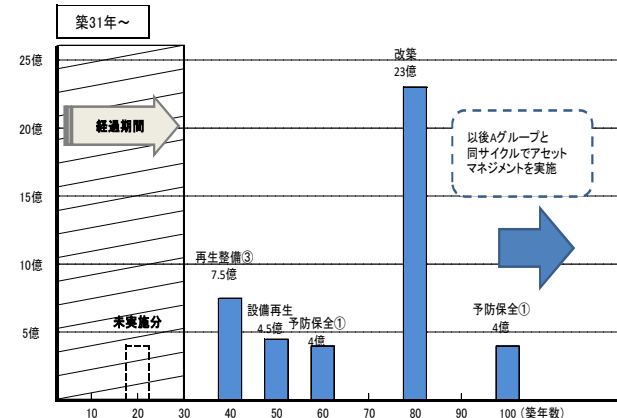
| 項目 | 整備メニュー |
|----------|---|
| 校舎予防保全① | 防水・外壁改修・内装補修・電気設備改修・エレベータ改修等 |
| 校舎予防保全② | 防水・外壁改修・トイレ改修・電気設備改修・エレベータ改修 内装改修・断熱化等 |
| 校舎設備予防保全 | 給排水衛生設備改修・空調設備改修・受変電設備改修 給食室改修・プール更新等 |

Bグループ



| 項目 | 整備メニュー |
|---------|--|
| 校舎再生整備① | 防水・外壁改修・トイレ改修・エレベータ設置 太陽光発電（蓄電池含む）等 |
| 校舎再生整備② | 内装改修・断熱化・電気設備改修等 |
| 校舎予防保全③ | 防水・外壁改修 |
| 校舎予防保全④ | 内装・電気設備改修等 |
| 校舎設備再生 | 給排水衛生設備改修・空調設備改修・受変電設備改修 給食室改修・プール更新等 |

Cグループ



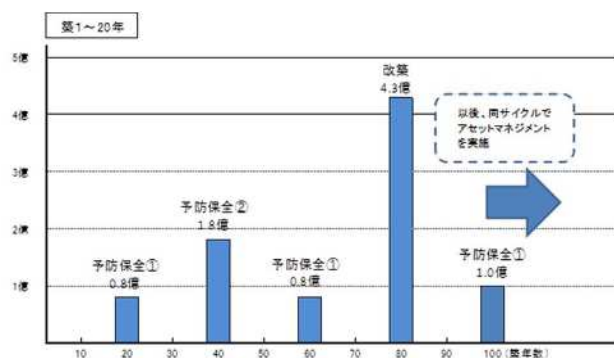
| 項目 | 整備メニュー |
|---------|--|
| 校舎再生整備③ | 防水・外壁改修・トイレ改修・電気設備改修・エレベータ設置 内装改修・断熱化・太陽光発電（蓄電池含む）等 |
| 校舎予防保全① | 防水・外壁改修・内装補修・電気設備改修・エレベータ改修等 |
| 校舎設備再生 | 給排水衛生設備改修・空調設備改修・受変電設備改修 給食室改修・プール更新等 |

「学校施設長期保全計画」に基づく取組③

概要 背景 取組 成果 まとめ

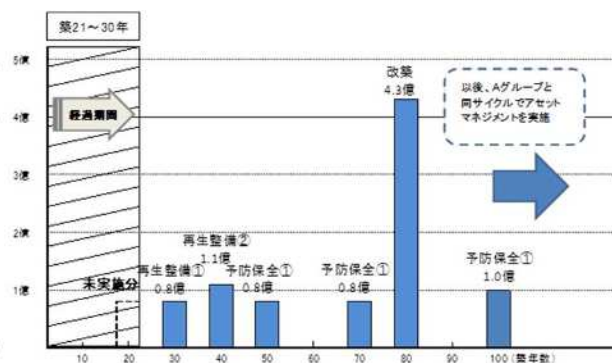
体育館

Aグループ



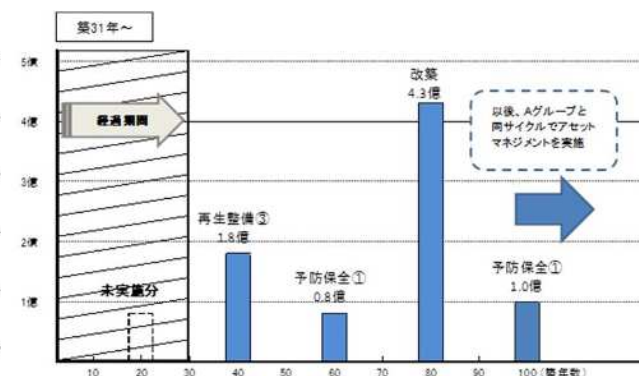
| 項目 | 整備メニュー |
|----------|-------------------------------------|
| 体育館予防保全① | 屋根・外壁改修・照明改修等 |
| 体育館予防保全② | 屋根・外壁改修・内装改修・断熱化・照明改修 太陽熱利用システム等 |

Bグループ



| 項目 | 整備メニュー |
|----------|---------------------|
| 体育館再生整備① | 屋根・外壁改修・照明改修等 |
| 体育館再生整備② | 内装改修・断熱化・太陽熱利用システム等 |
| 体育館予防保全① | 屋根・外壁改修・照明改修等 |

Cグループ



| 項目 | 整備メニュー |
|----------|-------------------------------------|
| 体育館再生整備③ | 屋根・外壁改修・内装改修・断熱化・照明改修 太陽熱利用システム等 |
| 体育館予防保全① | 屋根・外壁改修・照明改修等 |

「学校施設長期保全計画」に基づく取組④

概要 / 背景 / **取組** / 成果 / まとめ

- 第3期実施計画に基づき、令和4年度、令和5年度の計画では、校舎34校、体育館17校の実施予定に対し、校舎33校、体育館6校の工事を実施しました。
(入札不調の影響により校舎1校、改修方法の検討に時間を要したことにより体育館10校が、令和6年度に延期となっています。)

■年度及びグループごとの工事校数内訳

| 令和4年度工事校数 | 校 舎 | | | 体育館 | | |
|-------------|-----|-----|-----|-------|----|-----|
| | 計画 | 実施 | 未実施 | 計画 | 実施 | 未実施 |
| Aグループ(予防保全) | 17校 | 0校 | 0校 | 4校 | 0校 | 0校 |
| Bグループ(再生整備) | | 0校 | 0校 | | 0校 | 0校 |
| Cグループ(再生整備) | | 17校 | 0校 | | 3校 | 1校 |
| 計 | 17校 | 17校 | 0校 | 4校(※) | 3校 | 0校 |

※令和4年度に計画していた体育館4校のうち1校は令和3年度に実施

| 令和5年度工事校数 | 校 舎 | | | 体育館 | | |
|-------------|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| | 計画 | 実施 | 未実施 | 計画 | 実施 | 未実施 |
| Aグループ(予防保全) | 17校 | 0校 | 0校 | 13校 | 0校 | 2校 |
| Bグループ(再生整備) | | 4校 | 0校 | | 0校 | 8校 |
| Cグループ(再生整備) | | 12校 | 1校 | | 3校 | 0校 |
| 計 | 17校 | 16校 | 1校 | 13校 | 3校 | 10校 |

平成30年度から学校トイレの環境整備を優先するため、A・Bグループの予防保全と再生整備を一時中止し、令和4年度から設計(工事は令和5年度から)を再開しました。

快適な学習環境の確保に向けた設備更新の取組

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 学校トイレの快適化、エレベータ設置等の推進、また適切な学校施設の維持管理や営修繕を実施しました。

【学校トイレの快適化】

R4年度：工事校数33校（175校全校完了）



（快適化後）

【既存校のエレベータ設置】

R4～R5年度：工事校数8校（全175校中、171校完了）



（設置後）

【学校直結給水化工事】

R4～R5年度：計画延べ16校に対して実績延べ6校

学校名：千代ヶ丘小学校

井田中学校

東小田小学校

宮前平小学校

白幡台小学校

南百合丘小学校



【施設・設備の保守・点検、維持管理、補修】

- ・校舎（トイレ・窓ガラス等）の定期清掃や環境衛生管理等を実施
- ・営修繕の実施件数（R4:886件、R5:785件）



（外窓ガラス清掃）

良好な教育環境整備の推進の取組

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 住宅開発・人口動態を捉えた児童生徒数及び学級数の推計の実施
- 通学区域の見直し
【R4】塚越地区、【R5】下作延地区
- 新小倉小学校開校(R7.4予定)に向けた基本・実施設計及び工事着手
- 校舎増築工事
【R4】井田中学校完成、【R5】新作小学校、南百合丘小学校完成

■校舎増築工事 R4～R5年度の取組と今後の予定

| 学 校 名 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 |
|-----------|------------|-------------|-------------|-------------|---------------|-----------|---------------|
| 井 田 中 学 校 | 工事 (完成) | | | | | | |
| 新 作 小 学 校 | 設計 工事Ⅰ | 工事Ⅱ (完成) | | | | | |
| 南百合丘小学校 | 設計 工事Ⅰ | 工事Ⅱ (完成) | | | | | |
| 坂 戸 小 学 校 | 工事Ⅰ | 工事Ⅱ | 工事Ⅲ (完成) | | | | |
| 宮前平中学校 | 設計 | 設計 | 工事Ⅰ | 工事Ⅱ (完成) | | | |
| 鷺 沼 小 学 校 | | 設計 | 設計 | 工事Ⅰ | 工事Ⅱ (完成) | | |
| 登 戸 小 学 校 | | 設計 | 設計 | 工事1期 Ⅰ | 工事1期 Ⅱ(完成) | 工事2期 Ⅰ | 工事2期 Ⅱ(完成) |

■新小倉小学校イメージ



成果指標①の達成状況(目標未達成)

概要 背景 取組 成果 まとめ

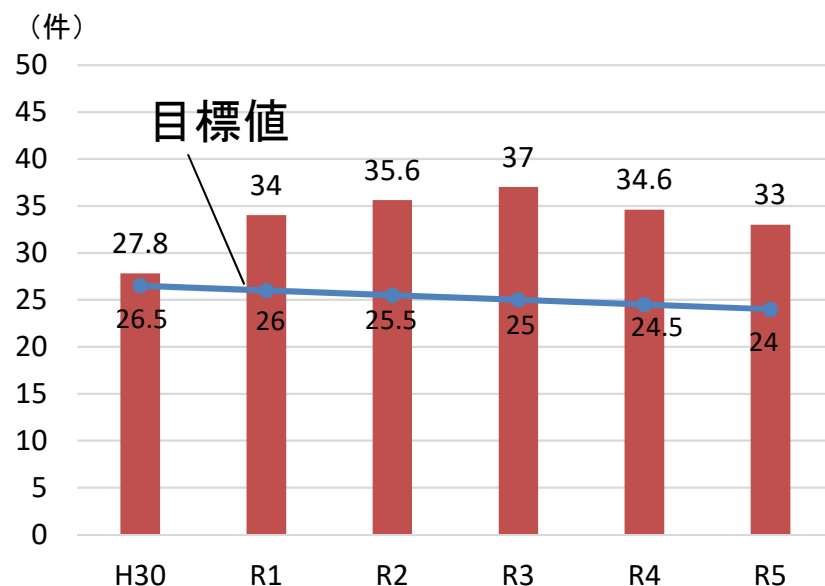
児童生徒の登下校中の事故件数

- 直近5年間の平均値では、目標を下回っていますが、単年ごとの事故件数は、令和元年度をピークに減少傾向にあります。

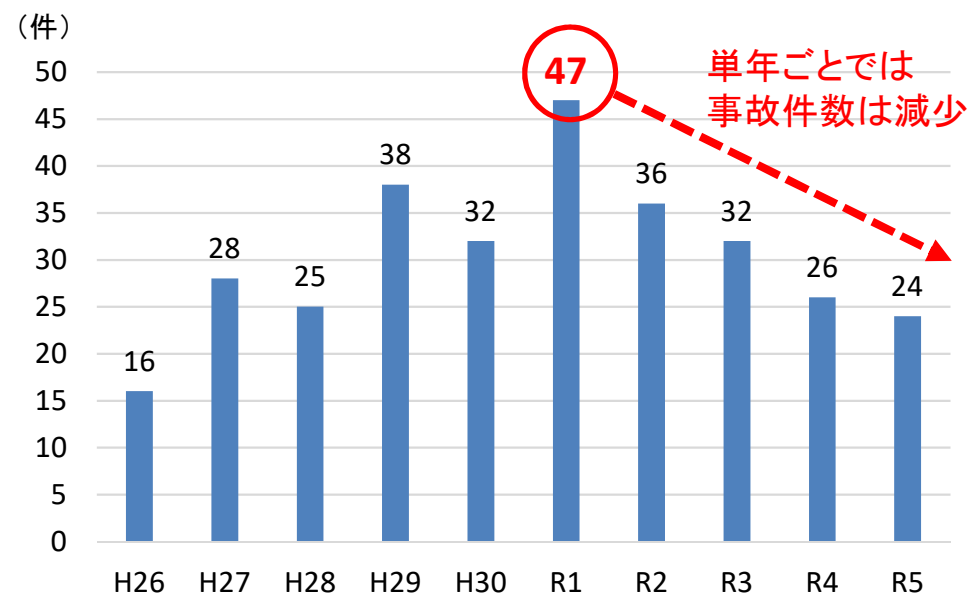
※事故件数は、1月～12月までの年単位で計算

| | 第1期 策定時 (H26) | R4 (H30～R4 の平均) | R5 (R1～R5 の平均) |
|----|---------------------|-----------------------|----------------------|
| 目標 | | 24.5件 | 24件 |
| 実績 | 29件 | 34.6件 | 33件 |

■直近5年間の平均事故件数



■単年ごとの事故件数



成果指標①の成果分析

概要 背景 取組 成果 まとめ

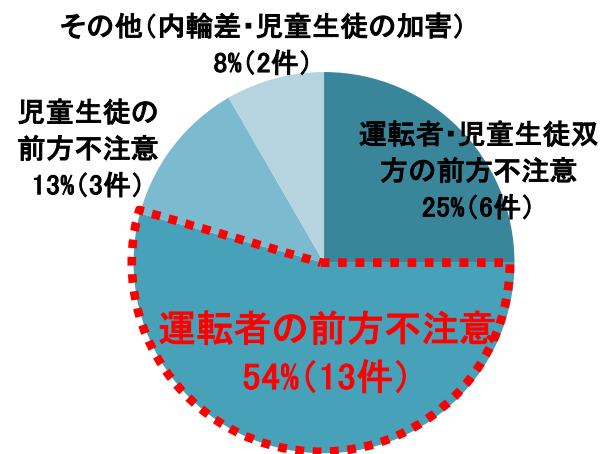
児童生徒の登下校中の事故件数

- スクールガード・リーダーの配置等の取組に加えて、学校が独自に行うスクールガードの配置、交通安全教室の実施など様々な対策を講じてきた結果、目標は下回る結果となっていますが、単年ごとの事故件数は減少しています。
- なお、事故の主な原因は、自動車等運転者の前方不注意であることから、関係機関等と協力・連携した児童生徒の安全確保に加えて、児童生徒に道路交通における危険を予測し、これを回避して安全に通行する意識及び能力を高める取組を進めることが必要です。

■道路管理者による路側帯のグリーンベルトの設置



■登下校中の主な事故原因 (令和5年1月～12月)



成果指標②の達成状況(目標未達成)

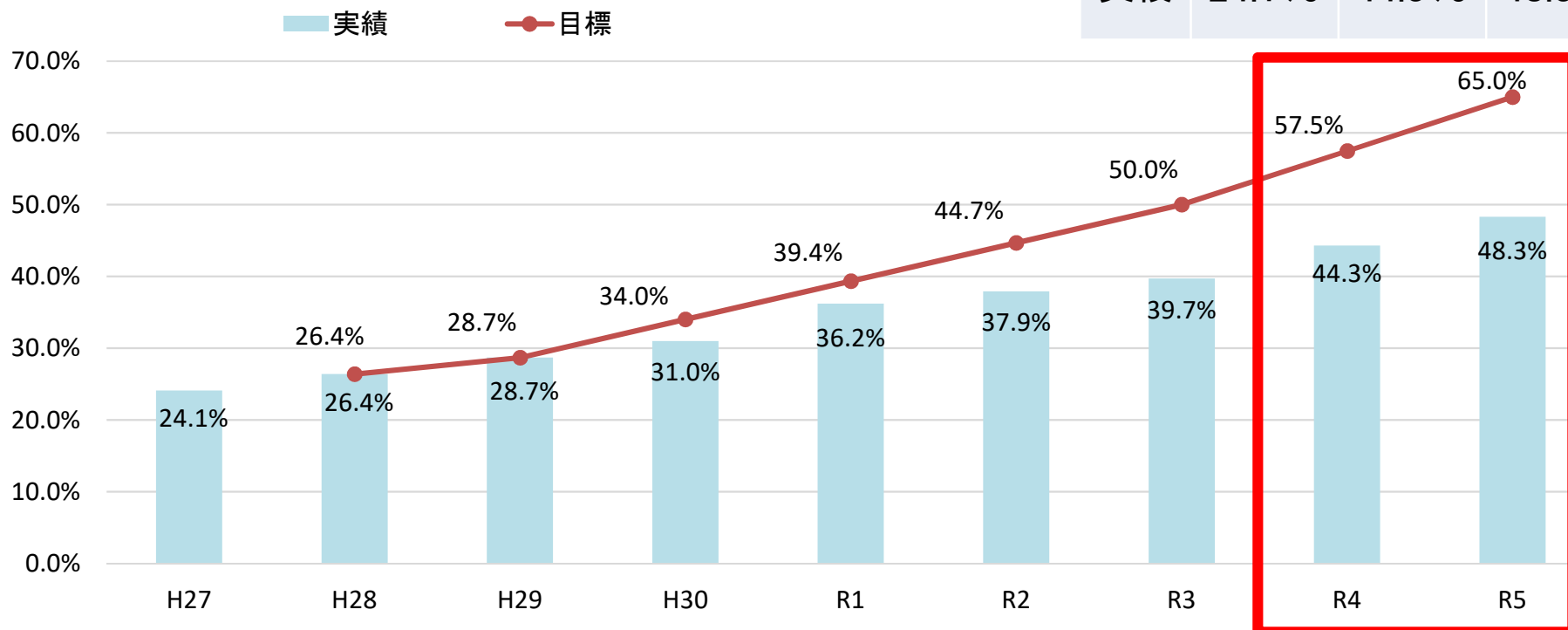
概要 背景 取組 成果 まとめ

老朽化対策及び質的改善が行われた学校施設の割合

- 老朽化対策及び質的改善が行われた学校施設の割合は、令和5年度時点で48.3%となり、第1期策定時から24.2%増加したものの、入札不調等により、目標を16.7%下回りました。

| | 第1期策定時(H27) | R4 | R5 |
|----|-------------|-------|-------|
| 目標 | | 57.5% | 65% |
| 実績 | 24.1% | 44.3% | 48.3% |

■老朽化対策及び質的改善が行われた学校施設の割合



成果指標②の成果分析

概要 背景 取組 成果 まとめ

老朽化対策及び質的改善が行われた学校施設の割合

- トイレ改修は学校施設長期保全計画策定前にも大規模改修等に併せて行われてきましたが、平成29年度末にトイレの快適化を優先して加速化することを決定したことに伴い、目標を下回る結果となった一方、令和4年度までに全校のトイレの快適化を完了しました。
- 入札不調の影響により校舎1校、改修方法の検討に時間を要したことにより体育館10校の工事が未実施となりましたが、未実施分につきましては令和6年度に工事実施します。

■トイレの快適化

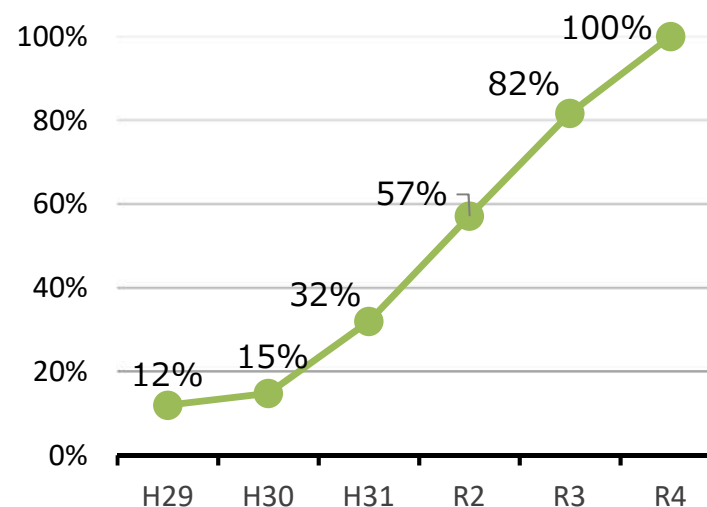
快適化前



快適化後



■トイレ快適化された学校の割合



その他成果(数値で把握できる補足指標)

概要 背景 取組 成果 まとめ

学校トイレの環境整備校数

- トイレの床がウェット式の学校を対象とし、床のドライ化、便器の洋式化等を実施し、トイレの環境改善を図った学校数。【R4】175校(全校完了)

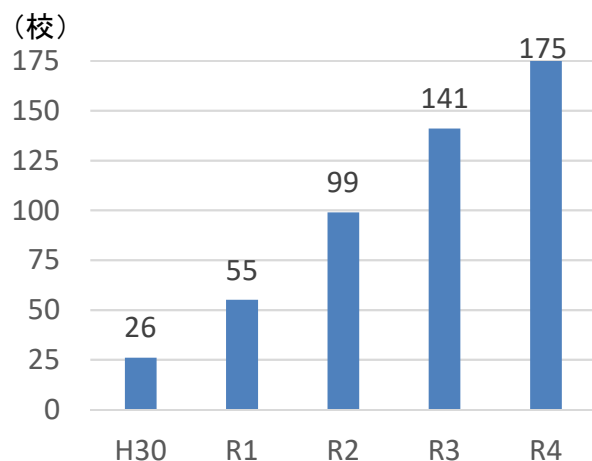
既存校のエレベータ設置校数

- 学校のバリアフリー化を目的として、エレベータを設置した学校数【R5】171校

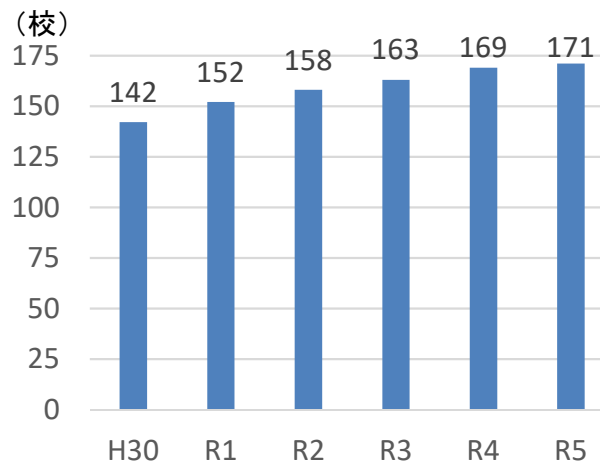
校舎増築工事の実施校数

- 児童生徒の増加に対応するための校舎増築工事の実施校数

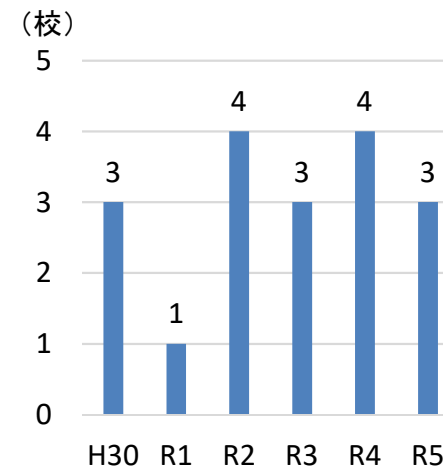
■ 学校トイレの環境整備校数(累計)



■ 既存校のエレベータ設置校数(累計)



■ 校舎増築工事の実施校数



その他成果(定性的な成果)

概要 背景 取組 成果 まとめ

安全教育の意識醸成

- 各学校において警察等関係機関と連携した交通安全教室の実施等により、児童生徒への安全教育の意識醸成を図ることができました。

学習環境の質的改善

- 改修工事を計画的に実施することにより、教育環境を早期に改善し、長寿命化の推進による財政支出の縮減と平準化を図るとともに、老朽化対策や安全で快適に過ごせる学習環境の質的改善に効果がありました。

【老朽化対策を実施した学校施設】



普通教室改修



理科室改修



外壁塗装

施策の進捗状況①

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

施策の進捗状況 ▶ B 一定の進捗がある(目標達成に向けて進捗している)

理 由

- ① 「学校安全推進事業」については、スクールガード・リーダーや地域交通安全員の配置、通学路の危険箇所の改善など通学路の安全対策の取組の推進や、学校防災研究推進校での実践的な指導方法の研究・効果検証を他校にも共有することを通じて、学校の安全体制の充実・向上に向けて着実に進捗しています。
- ② 「学校施設長期保全計画推進事業」については、改修工事を計画的に実施してきましたが、入札不調や改修方法の検討に時間を要したことから工事年度が遅れたことに伴い、成果指標である「老朽化対策及び質的改善が行われた学校施設の割合」が目標を下回る結果となりました。一方で、ニーズの高いトイレ改修等、適宜適切な整備内容を選択しながら事業を進めたことにより、老朽化対策や安全で快適に過ごせる学習環境の質的改善に一定の成果がありました。
- ③ 「学校施設環境改善事業」について、学校トイレ環境整備事業は、令和4年度に全校完了しました。また、エレベータ等、教育環境の改善や防災機能の強化に努め、ほぼ目標どおりに達成しています。

【施策の進捗状況区分】

- A 順調に推移している(目標を達成してる)、B 一定の進捗がある(目標達成に向けて進捗している)
C 進捗が遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)、D 進捗は大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)

施策の進捗状況②

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

施策の進捗状況

B 一定の進捗がある(目標達成に向けて進捗している)

理 由

- ④ 「学校施設維持管理事業」については、学校施設の老朽化が進んでおり、大規模修繕を待たなければならない内容もあるものの、児童生徒の安全に関わる案件を最優先にするなど、順位をつけながら適切に保守、修繕等を行い、安全で快適に過ごすことのできる学習環境の保持が図られており、施策への貢献を果たしています。
- ⑤ 「児童生徒数・学級数増加対策事業」については、坂戸小学校が工事着手後に校門前の歩道下に水路構造物が埋設されていることが判明したため、その対応に時間を要したことや、宮前平中学校が入札不調により、計画の一部に遅れが生じましたが、井田中学校、新作小学校及び南百合丘小学校の増築校舎は予定どおり完成しました。また、その他の事業については、目標どおりの実績となりました。

【施策の進捗状況区分】

- A 順調に推移している(目標を達成してる)、B 一定の進捗がある(目標達成に向けて進捗している)
C 進捗が遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)、D 進捗は大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)

施策の今後の方向性①

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

今後の方向性

Ⅱ 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)

理 由

- ① 「学校安全推進事業」については、これまでの取組を継続するとともに、学校・家庭・地域その他庁内関係部署との連携を更に深め、より効率的・効果的な学校安全を目指す体制づくりを構築できるよう進めてまいります。
- ② 「学校施設長期保全計画推進事業」については、教育環境を早期に改善するとともに、長寿命化の推進による財政支出の縮減と平準化を図る必要があるため、「学校施設長期保全計画」に基づき、老朽化した施設の状況や個別課題への対応を踏まえながら計画的に改修工事を進めていきます。
- ③ 「学校施設環境改善事業」については、経年劣化に伴う普通教室や特別教室等の空調設備の更新等を進めていきます。

【今後の方向性区分】

- Ⅰ 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)、Ⅱ 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)
Ⅲ あまり効果的な事業構成でない(見直し等の余地が大きい)、Ⅳ 事業構成に問題がある(抜本的な見直し等が必要である)

施策の今後の方向性②

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

今後の方向性

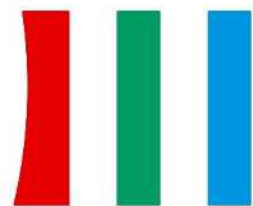
Ⅱ 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)

理 由

- ④ 「学校施設維持管理事業」については、安全で快適な学習環境の維持向上のため、今後も適切に学校施設等の営修繕や維持管理を行っていきます。
- ⑤ 「児童生徒数・学級数増加対策事業」については、児童生徒数の増加や義務標準法の改正(35人学級の段階的な実施)に的確に対応するため、学校ごとの将来推計を行い、校舎の増築、新校設置、通学区域の見直し等により、良好な教育環境の維持に努めます。また、工期延長となった坂戸小学校については令和6年度、入札不調となった宮前平中学校については令和7年度の完成を目指します。

【今後の方向性区分】

- I 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)、Ⅱ 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)
- Ⅲ あまり効果的な事業構成でない(見直し等の余地が大きい)、Ⅳ 事業構成に問題がある(抜本的な見直し等が必要である)



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市